



いるぴしち

令和3年 7月7日(水)
竹富町立 黒島小中学校
発行：校長 與世山 操

○自らよく考え進んで学習する子(知) ○心豊かで思いやりのある子(徳) ○たくましくねばり強い子(体)

6月平和・人権教育

戦後76年目の今年、6月の「平和月間」には、「平和な世界」をテーマに、平和学習に取り組みました。コロナ禍の中、沖縄県が緊急事態宣言区域に追加されたため、八重山平和祈念館での学習、石垣島の戦跡巡りなどの島外の学習計画は中止せざるえませんでした。変更し取り組んできた平和月間の取り組みを紹介いたします。また、年間を通して、月ごとにテーマをきめて取り組んでいる「人権教育」についての取り組みも紹介します。

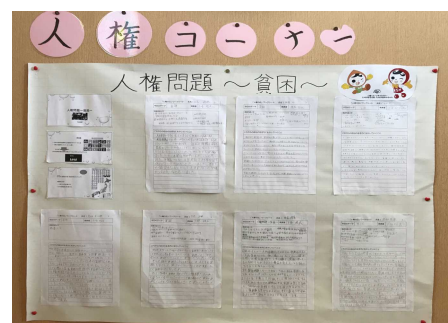
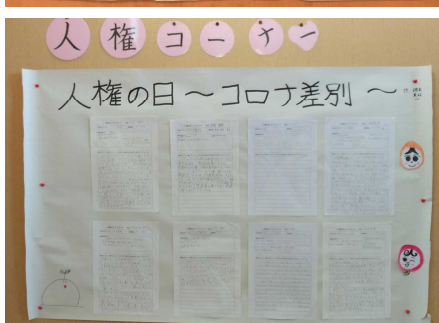
「平和学習」～平和の担い手として生きる～

月間の始まりとして、小学部では、担当の下地教諭(平和・人権担当)より、朝の時間を利用して、児童へお話がありました。戦争マラリヤや黒島の戦跡の話などを聴いて平和について考えました。新校舎1階の集会場所には、「展示コーナー」が設けられ、関係する本や音楽、新聞記事、戦争を伝えるパネル、「絵が語る八重山の戦争」(潮平正道著)などが展示され、戦争や平和についてみんなで考え学びました。休み時間には、「月桃」などの平和をテーマにした曲をCDでながし、歌詞の意味にも思いをよせることができました。また、各学級、小・中学部ごとで、平和学習ビデオ視聴(「石の声」)や担任・下地教諭による講話が行われました。子供たちは、学んだことをメッセージカードにして、一人一人の思いを伝えあうことができます。この平和の担い手の芽が大きく育ってほしいと思いました。5月、平和の作文に取り組んだ小学校4・5年生は、音読集会で、「平和の作文」を発表しました。聞き手の1・3年生に向けて発表する一人一人の作文からは、平和を願う思いがいっぱいあふれていました。

戦争のない、平和な世界にするために私たちにできること、しなければならないことを考え続けることが大切です。戦争は絶対にしてはいけないことを胸に刻み、戦争で亡くなったすべての人々の尊い命の犠牲があったことを忘れず、自分の命も他人の命も大切に生きていくことを子供たちに伝えていきたいと思えます。

「人権教育」～一人一人の幸せのために～

4月、「人権教育」として1回目の人権集会で、「コロナ差別」をテーマに中学部の中川教諭(平和・人権担当)が、中学生に向けて講話をしました。そして、中学生へと手渡されたプレゼンテーションの2回目は、中学3年生の下地琉玄さんでした。テーマは、「人権問題～貧困～」です。時間をかけて調べた貧困の実態、自分の考えたことを分かりやすく発表してくれて、人ごとで無く、自分のこととして考えていくことの大切さを考えられました。中学生は、発表を聴いた感想をワークシートにまとめ、みんなが読みやすい場所に掲示しています。考えたことを話すという言語活動を通して、思考する力が育つと言われています。次の発表者にも期待しています。



「三線の学習」～地域の芸能・文化の継承～

5月7日、音楽の授業で、保護者の島仲信八さんを講師としてお招きし、三線の授業が行われました。中学生は、8名とも三線に慣れ親しんでいます。黒島節を謡い弾くのは初めての子もいて初めは戸惑っている様子でしたが、島仲さんの歌と三線を聴かせていただき、的確なご指導をいただきながらじっくりと学習していました。また、職員の大底京子さんにも、講師として数回授業にご指導をしていただきました。子供たちの上達の早さには驚くばかりでした。三線の授業は、地域の芸能・文化に親しみ継承していく取り組みの一つです。お忙しい中、子どもたちのために、ありがとうございました。

